



2023年10月 日本海スケトウダラ資源調査結果

道総研

令和5年11月2日

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場 0162-32-7166
中央水産試験場 0135-23-8707 函館水産試験場 0138-83-2892

- ◎魚探反応量（暫定値）は，宗谷・留萌海域で前年比 0.99，石狩・後志海域で前年比 0.73，檜山・渡島海域で前年比 0.71
- ◎利尻・礼文島周辺では尾叉長 38 cm 前後の 5 歳魚（2018 年級）主体で，45cm 前後の 7～8 歳魚（2015～2016 年級）が混ざる
- ◎武蔵堆西部，留萌沖，小樽堆では，350m 以浅で尾叉長 18 cm 前後の 1 歳魚（2022 年級）が主体で，350m 以深では 27 cm 前後の 3 歳魚（20 年級）が主体
- ◎積丹沖，岩内沖，檜山では尾叉長 45cm 前後の 7～8 歳魚（2015～2016 年級）主体で，積丹沖では 38cm 前後の 5 歳魚（2018 年級）も多い

1. 調査概要

2023年10月11日～26日に道西日本海の図1に示した海域において，稚内水試・北洋丸と函館水試・金星丸により，計量魚群探知機と着底トロール網を用いたスケトウダラ資源調査を実施しました。

2. 魚探反応量

強い魚探反応が見られたラインの魚探画像を図2に，魚探反応量 NASC の分布を図3に示します。今年度の調査では，武蔵堆北部～西部（ラインAとラインBの沖側）と島牧沖（ラインM，N）で強い反応が見られました。

海域別の反応量は，宗谷・留萌海域で前年比 0.99，石狩・後志海域で前年比 0.73，檜山・渡島海域で前年比 0.71 であり，全体では前年比 0.85 でした（魚探反応量は暫定値）。

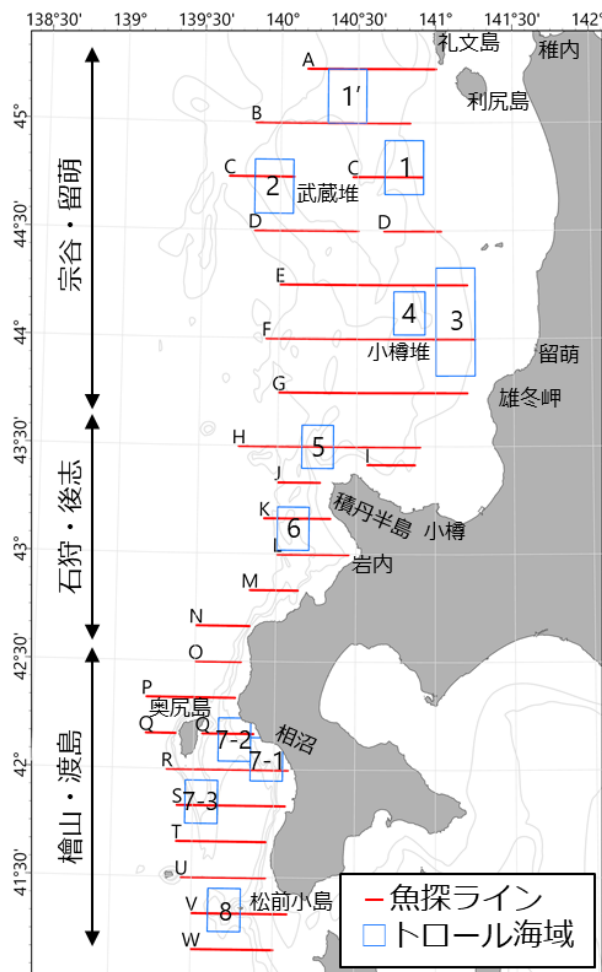


図1. 調査海域図

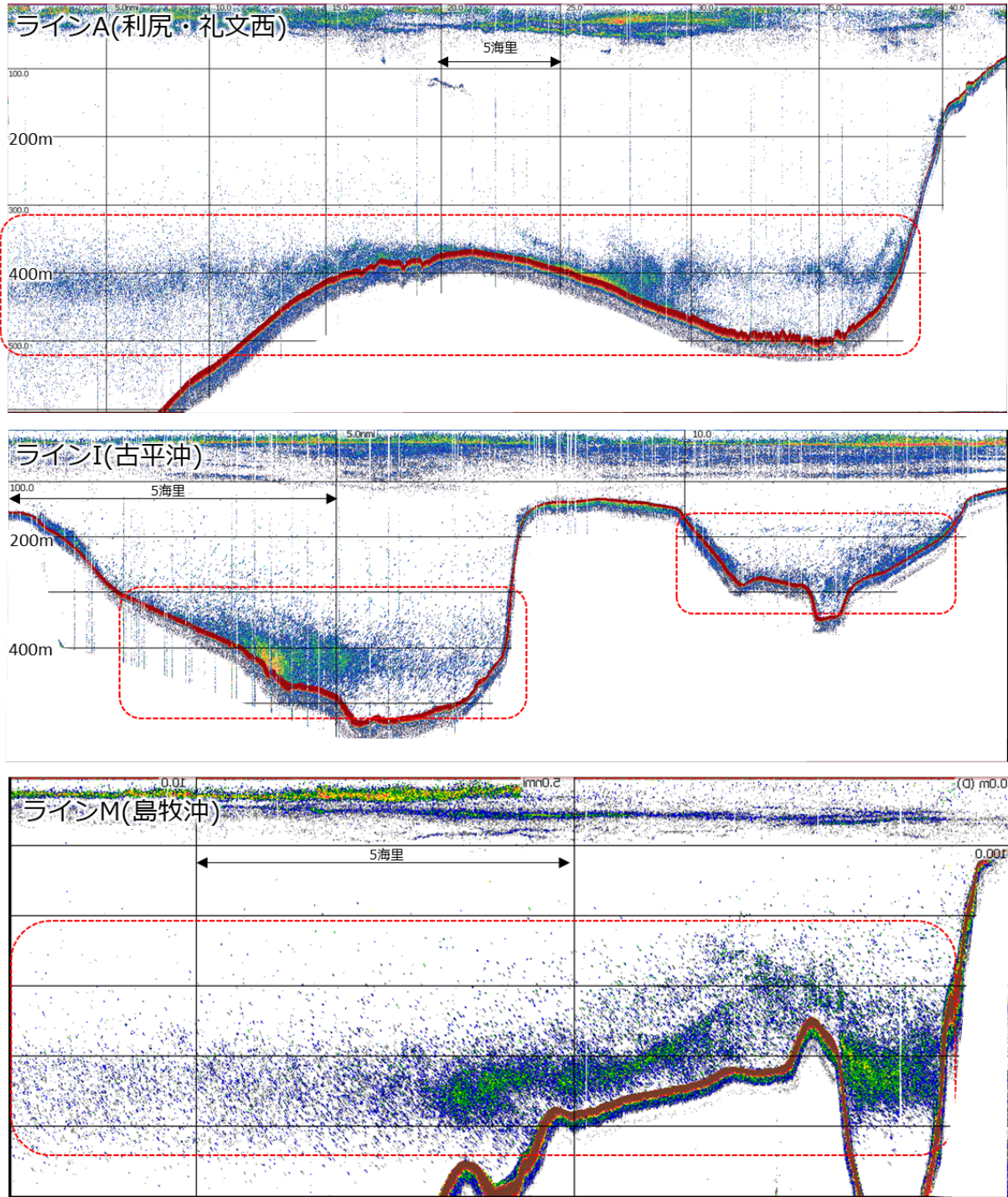


図 2. 強い魚探反応が見られたラインにおける魚探画像（エコーグラム）.
赤点線枠内はスケトウダラ魚群と見られる反応. 各画像の右側が沿岸側.

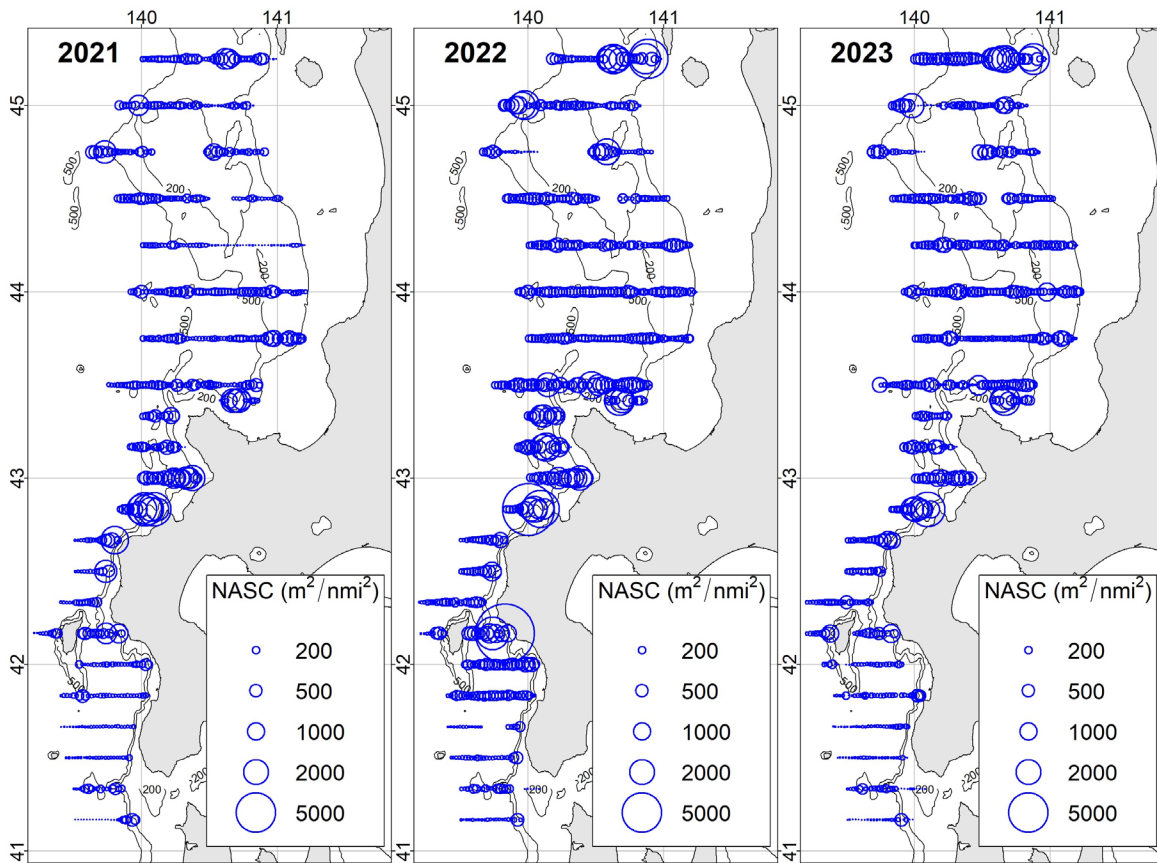


図 3. 魚探反応量 NASC の分布.

NASC : 1 平方マイルあたりの魚探反応量で魚群分布量の指標になる.

3. サイズ組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図 4 に示します。利尻・礼文島周辺海域(トロール海域 1')では、尾叉長 38 cm 前後の 5 歳魚(2018 年級)、45cm 前後の 7~8 歳魚(2015~2016 年級)が漁獲されました。

武蔵堆西部海域、留萌沖、小樽堆(トロール海域 2, 3, 4)では、海底深度 350m 以浅では尾叉長 18 前後の 1 歳魚(2022 年級)が多く漁獲され、海底深度 350m 以深では 27 cm 前後の 3 歳魚(20 年級)主体で、40~45cm の 5~8 歳魚(2015~2018 年級)とみられる個体が混ざって漁獲されました。

積丹~檜山海域(トロール海域 5~7)では尾叉長 45cm 前後の 7~8 歳魚(2015~2016 年級)主体で、積丹沖では 38cm 前後の 5 歳魚(2018 年級)も多く漁獲されました。

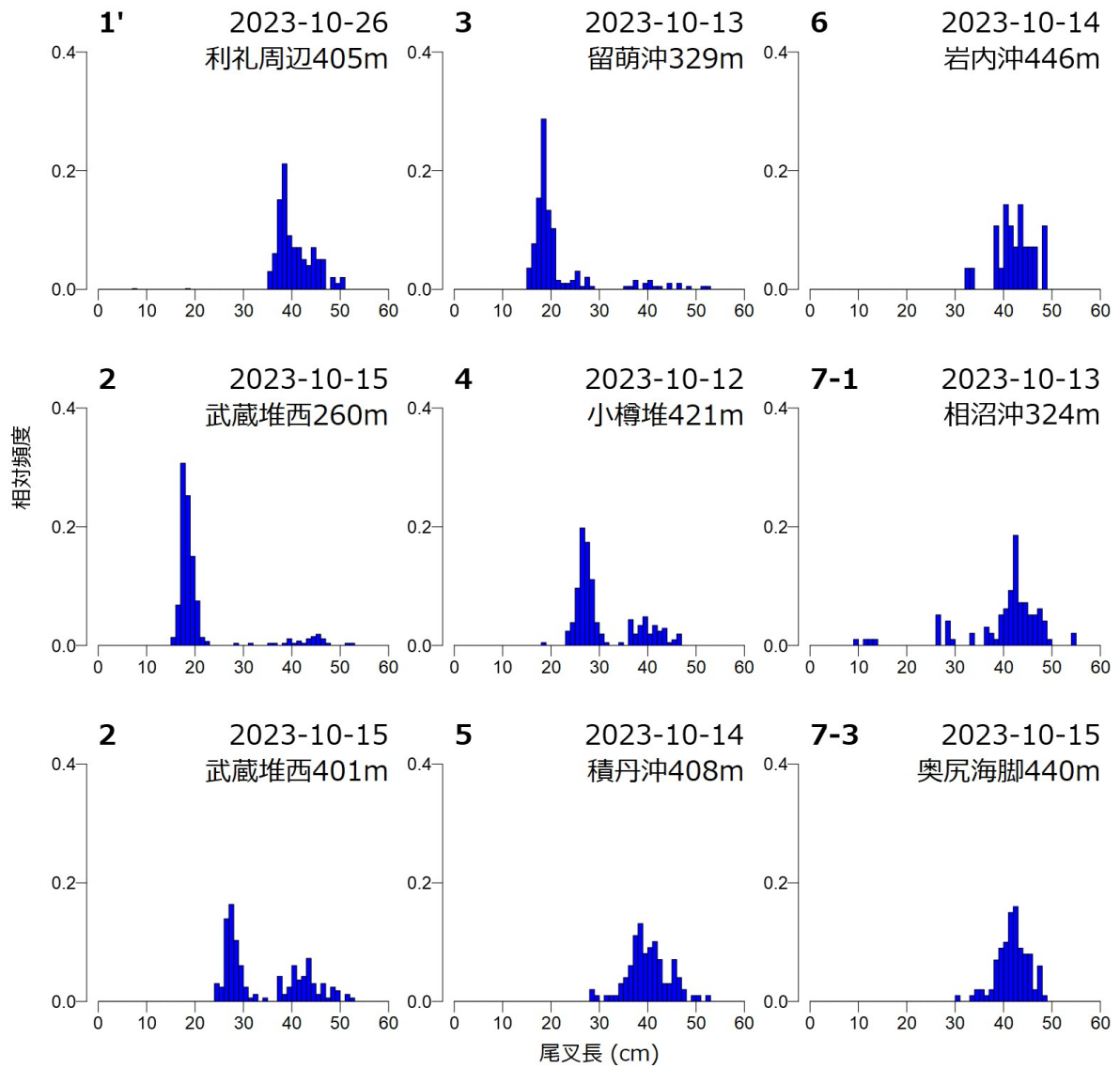


図 4. スケトウダラの尾叉長組成 (2023 年 10 月道西日本海).

各グラフ左上数字は図 1 のトロール海域番号と対応.